

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 男性対象の介護予防教室について (20分)</p> <p>市では生活機能の維持・向上を図り要介護等への移行を防止し、自立した日常生活の維持を支援するため、介護予防のための体操教室を開催しております。しかし介護問題になじみが薄い男性の参加者が少なく感じられ、男性でも気軽に参加しやすい雰囲気とは言えません。</p> <p>黒部市では従来開催している介護予防教室の参加者は女性の割合が高いことから、加わりにくいと感じている男性もいるとみて、男性限定版を企画。運動で健康維持を図るほか、料理やおしゃれ講座など新しい生きがいや活力につなげる多彩なメニューもそろえています。</p> <p>黒部市は毎年、複数の介護予防教室を開いており、女性参加者が9割を占めていました。男性でも気軽に参加しやすい雰囲気をつくることで、自宅に閉じこもりがちになるのを防ごうと、本年度初めて開催しました。</p> <p>本市においても超高齢化という急激な変化に直面し、社会保障関連費が増大する中で、積極的な男性の健康増進・介護予防教室への参加の推進が必要とされております。</p> <p>このような観点から、以下の質問をいたします。</p> <p>(1) 現状と課題について</p> <p>(2) 今後の取組について</p>	市長
<p>2 災害時におけるペットの同行避難について (20分)</p> <p>環境省は昨年8月、全国の自治体に配布した「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」で、犬や猫などペットとの同行避難を原則とすることを初めて示しました。これを受けて、自治体では避難所などの受け入れ体制やルールづくりに動きだしているが、自治体の対応はまちまちです。</p> <p>同行避難が注目されるようになった大きなきっかけは、2011年の東日本大震災。避難所の運営に当たる自治体には、ペットの扱いについて事前に決めていなかった所も多かった。避難所に</p>	市長

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>ペットを受け入れるかどうか、どのように受け入れるかをめぐって混乱が生じた例も少なくなかった。</p> <p>また、受け入れた場合も、他の避難者から鳴き声や臭いの苦情が出たり、アレルギーの発症、衛生面への不安の声が上がってトラブルが生じたこともあった。</p> <p>原発事故が発生した福島県では、事故直後に避難指示が出された福島第1原発から半径20キロメートル圏内では、住民がペットや家畜を残したまま避難せざるを得なかった。このため多くの動物が餓死したり、一部が野生化するなど深刻な事態が発生しました。こうした中で、避難所でも飼い主とペットが安心して生活できる体制づくりを求める声が高まり、環境省はガイドラインで、東日本大震災の経験を踏まえ、飼い主や自治体などの役割、災害時の避難所への受け入れ、仮設住宅での同居、飼い主のいない動物の保護の在り方などを示しました。</p> <p>このことから以下の質問をいたします。</p> <p>(1) 本市の現状について</p> <p>(2) 同行避難の体制づくりについて</p> <p>(3) 避難所での動物救護マニュアルについて</p>	